

次の文を読み問1～問3に答えよ。

Aちゃん(12歳、女児)。下痢便が続いている。周りで腸炎が流行しているため、近くの病院を受診して治癒していたが、改善しないため母親がAちゃんを連れて、市民病院を受診した。Aちゃんは精密検査のため入院となった。潰瘍性大腸炎の軽症と診断され、治療を受けることになった。あった。「ちゃんと受診して治療をしていたのに、新たな病気が見つかってつらい」「血便は時々みられたが、その月の生理から始まったと思い、恥ずかしくて誰にも言えなかった」と話している。

問1

潰瘍性大腸炎の特徴で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 流行性である。
2. 直腸に好発する。
3. ウイルス感染である。
4. 縦走潰瘍が特徴である。
5. 血便がみられる。

問2

Aちゃんの言動に対する看護師の関わりとして最も適切なのはどれか

1. 月経痛はあるのかと詳細に聞く。
2. Aちゃんなりに体調管理していたことをねぎらう。
3. Aちゃんに代わって保護者にAちゃんの気持ちを伝える。
4. 潰瘍性大腸炎はよくある疾患なので気にすることはないと励ます。

問3

その後、Aちゃんは退院し、定期的に受診することとなった。Aちゃんへの生活指導として最も適切なのはどれか。

1. 「便検査の日が生理であっても大丈夫です」
2. 「規則正しい生活を送るようにしましょう」
3. 「排便の際はマスクを装着して行いましょう」
4. 「加熱処理されていない食べ物は食べてはいけません」

次の文を読み問4～問6の問いに答えよ。

Aさん(34歳、女性、会社員)。2年前に結婚し、結婚当初は夫婦2人の生活を楽しまたいと考えていたが、Aさんと夫は子どもが欲しいと思うようになった。しかし、1年経過しても妊娠しないため、Aさんは不妊外来を受診したいと考えた。Aさんは1年前から基礎体温表をつけている。

#### 問4

不妊について適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 原因は女性側にあると考えられる。
2. カップルで不妊外来を受診するのが望ましい。
3. 不妊外来での初回受診時に基礎体温表を持参する。
4. 初期スクリーニングとして基本検査は男性側のほうが多い。
5. 避妊せず性生活を送り、2年経っても妊娠しないときを不妊という。

#### 問5

不妊外来を受診したAさんは、不妊検査を受けることになった。検査と実施時期との組合せで正しいのはどれか。

1. 子宮卵管造影法 - 卵胞期
2. フーナーテスト - 卵胞期
3. 経膈超音波検査 - 黄体期
4. 子宮頸管粘液検査 - 排卵期
5. 卵胞刺激ホルモン、黄体形成ホルモンの測定 - 黄体期

#### 問6

不妊検査の結果、Aさんの不妊の原因は不明であった。検査後、Aさんの不妊治療が開始され、Aさんと夫は基本検査を受けながら不妊学級を受講した。Aさんが不妊治療を継続していく上で、次に実施する治療方法として最も考えられるのはどれか。

1. 排卵誘発法
2. 人口授精
3. 顕微授精
4. タイミング法
5. 体外受精-胚移植

次の文を読み問7～問9に答えよ。(2020年メデイカ②午後成人)

Aさん(60歳、女性)は、40歳代で糖尿病を発症し、58歳の時に糖尿病性網膜症(硝子体出血)にて失明したため退職している。Aさんが55歳の時に夫が事故で亡くなり、失明後は長女が同居して生活面の援助を行っていたが、長女が結婚と同時に自宅から30分の所へ引っ越すことになり、Aさんは1人暮らしとなった。長女を祝福しつつも、独居の生活に不安があり、週3回の訪問介護と週1回の訪問看護を導入することになった。長女も仕事をしながら、通院の付き添いや休日には買い物などの援助を行っている。現在Aさんは、2階建ての戸建て住宅に暮らしている。インスリン注射を自分自身で1日3回行い、手技は確立している。認知力は特に問題ない。

#### 問7

Aさんは1日あたり1,650kcalの食事の制限がある。食べることが好きで、友人との外食では食べ過ぎてしまう。「自分で食事を作って食べたいという気持ちがあるが、けがが心配でできない」と訪問看護師に言う。長女と同居しているところから電子レンジを使うことや食器を洗うことはできていた。Aさんの食事について適切なのはどれか。2つ選べ。

1. Aさんが友人との外食の機会を増やす。
2. 長女に毎日の食事作りに参加してもらう。
3. Aさんは一切食事の準備はしないようにする。
4. Aさんに訪問介護員と一緒に調理の献立を考えてもらう。
5. Aさんに電子レンジを用いた食事作りに参加してもらう。

#### 問8

Aさんは外出時に転倒し、右膝を打撲したため、立ち上がり時に手すりを使えるように、自宅に手すりの取り付け工事をすることになった。Aさんが利用できる社会資源として最も適切なのはどれか。

1. 住宅改修
2. 福祉用具貸与
3. 補装具費支給制度
4. 日常生活用具給付等事業

### 問9

Aさんは最近、歯茎の痛みを感じるようになったため、バスと電車を乗り継いでかかりつけの歯科医院を受診することになった。Aさんは「誰かと一緒なら安心だけど、長女は仕事があるから頼めない」と言う。訪問看護師のAさんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 訪問看護師が付き添う。
2. 1人で外出できるように励ます。
3. 長女に付き添ってもらうことを勧める。
4. 訪問介護員による外出介助の利用を勧める。

次の文を読み問10～問12に答えよ。

Aさん(70歳、女性)は、夫(72歳)と2人暮らし。娘が隣の県に住んでいる。Aさんは2か月ほど前から、物忘れや外出先の商店などでつじつまが合わない話をするようになった。5年前からは、夫が家事全般をしている。最近、Aさんは、頻尿のため、自室からトイレへの移動中に廊下で失禁することが頻繁にある。自宅近くのかかりつけ医を受診し、認知症と診断され、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準はランクⅡaである。要介護1と認定を受けるが、夫は「他人が家の中に入ってくるのはAが嫌がると思う」と介護保険サービスの利用に消極的な様子である。かかりつけ医の指示で週1回の訪問看護が開始された。

### 問10

現時点でのAさんの日常生活で最も起こりやすいのはどれか。

1. 近所を徘徊する。
2. たびたび道に迷う。
3. 火の不始末をする。
4. 食事に時間がかかる。

### 問11

Aさんの夫は「妻のことは自分で面倒をみたい。妻には世話になったし恩返しのためです」と、家事と介護の手を休めない。娘の手伝いも、訪問看護師からの訪問介護員の導入の提案も、かたくなに断り続けている。一方で夫は、訪問看護師と話をしても居眠りをすることがある。Aさんの夫についてのアセスメントで最も優先度が高いのはどれか。

1. 社会的孤立
2. 経済的支援
3. 家庭内の不和
4. 夫自身の疲労

## 問 12

ある日、訪問看護師が A さん宅を訪問すると、部屋の奥から A さんの夫の怒鳴り声が聞こえた。声をかけて室内に入ると、部屋の中からは尿と便の臭いがし、夫が A さんの失禁に対して「今日のご飯を食べさせないからな」と叱責しているようであった。A さんの顔面を見ると腫れていた。挨拶をして話を聞くと、夫は思わず叩いてしまった」と言う。訪問看護師による夫への最初の対応で最も適切なのはどれか。

1. 「A さんは病気だから我慢しましょう」
2. 「何があったのか話してくれますか」
3. 「叩くのは虐待で犯罪になりますよ」
4. 「二度と叩かないと約束してください」

次の文を読み問 13～問 15 に答えよ。

A さん(52歳、男性)は、6 年前から肝機能異常とC型肝炎ウイルス抗体陽性を指摘されていたが、自覚症状がなく積極的な治療を受けていなかった。最近、倦怠感が出現したため受診し、精査のため入院となった。入院時の検査データは、アルブミン 4.3g/dL、総ビリルビン 0.6mg/dL、AST<GOT>72IU/L、ALT<GPT>68IU/L、アンモニア 58ug/dL、白血球 3,600/uL、Hb13.2/dL、血小板 16.5 万/uL、プロトロンビン時間 80%であった。A さんは会社員でデスクワークをしている。

## 問 13

入院時の A さんの状態で最も考えられるものはどれか。

1. 低栄養状態である。
2. すぐに昏睡に陥る可能性は低い。
3. 黄疸が出現している可能性がある。
4. 入院中、多量出血する可能性が高い。

## 問 14

A さんは入院後の検査で肝硬変を指摘され、翌日の午前中に超音波ガイド下で肝生検を受けることとなった。この時の A さんへの説明で適切なのはどれか。

1. 「当日、朝食は摂れません」
2. 「腰椎麻酔下で検査を行います」
3. 「検査後はすぐにトイレに行くことができます」
4. 「穿刺時、怖かったら大きな呼吸をしてください」
5. 「生検針穿刺時は両膝を抱え込むようにしてください」

問 15

A さんにグリチルリチン製剤の注射による治療が開始され、その後、経過良好で退院となった。A さんへの退院時の説明で最も適切なのはどれか。

1. 「定期的な受診は必要ありません」
2. 「仕事は辞めて安静にしてください」
3. 「レバーやひじきの摂り過ぎに注意しましょう」
4. 「できるだけカロリーのあるものを食べましょう」

次の文を読み問 16～問 18 の問いに答えよ。

A さん(35 歳、男性、会社員)。妻との 2 人暮らし。学生時代の友人とバスケットボールを週 1 回行っている。A さんは 3 か月前より左下肢に痛みがあり、薬局で購入した湿布を貼付していたが、3 週間経っても痛みがひかないため病院を受診した。検査の結果、A さんは左脛骨の骨肉腫と診断された。医師からは、「腫瘍が大きく切除範囲が広いため、患肢を切断し義足を使用したほうが生活の質は高くなる」と説明を受け、左下腿切断術を受けることになった。

問 16

医師から説明を受けたあと、A さんは「医者から聞いたが、本当に足を切断するのかな。どうしよう…」と看護師に話した。このときの看護師の対応として最も適切なのはどれか。

1. 「足を切断すると聞いて不安になりますよね」
2. 「奥さんのためにも手術を受けたほうがいいです」
3. 「私があなたの立場なら足を切断する手術を受けます」
4. 「わからないことが具体的になったら質問してください」

問 17

A さんは左下腿切断術を受けた。手術後 1 日、A さんからナースコールがあり「ないはずの左足の指先が痛い。我慢していたけど気になる。何とかしてほしい」との訴えがあった。

A さんへの対応として最も適切なのはどれか。

1. 「左足の包帯を外します」
2. 「左足はどのように痛みますか」
3. 「左足の創部のマッサージをします」
4. 「左足を切断したことは覚えていますか」

### 問 18

手術後 1 週間が経過した。左足の断端部の創傷も順調に治癒している。断端部の包帯の交換を A さん自身で行ってもらうように、固定方法について指導を行うことになった。

A さんへの指導の内容として適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 弾性包帯を使用する。
2. 中枢は末梢より緩くまく。
3. 中枢から末梢に向かって巻く。
4. 腰部から断端部までを固定する。
5. 膝関節は屈曲した状態で固定する。

次の文を読み問 19～問 21 に答えよ。

A さん(60 歳、女性)は、40 歳代で糖尿病を発症し、58 歳の時に糖尿病性網膜症(硝子体出血)にて失明したため退職している。A さんが 55 歳の時に夫が事故で亡くなり、失明後は長女が同居して生活の援助を行っていたが、長女が結婚と同時に自宅から 30 分の所へ引っ越すことになり、A さんは 1 人暮らしとなった。長女を祝福しつつも、独居の生活に不安があり、週 3 回の訪問介護と週 1 回の訪問看護を導入することになっていた。長女も仕事をしながら、通院の付き添いや休日には買い物などの援助を行っている。現在 A さんは、2 階建ての戸建て住宅に暮らしている。インスリン注射を自分自身で 1 日 3 回行い、手技は確立している。認知力は特に問題ない。

### 問 19

A さんは 1 日あたり 1,650kcal の食事の制限がある。食べるのが好きで、友人との外食では食べ過ぎてしまう。「自分で食事を作って食べたいという気持ちがあるが、けがが心配でできない」と訪問看護師に言う。長女と同居しているところから電子レンジを使うことや食器を洗うことはできていた。ありがとうございます。A さんの食事について適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. A さんが友人との外食の機会を増やす。
2. 長女に毎日の食事作りに参加してもらう。
3. A さんは一切食事の準備はしないようにする。
4. A さんに訪問介護員と一緒に調理の献立を考えてもらう。
5. A さんに電子レンジを用いた食事作りに参加してもらう。

問 20

Aさんは外出時に転倒し、右足を打撲したため、立ち上がり時に手すりを使えるように、自宅に手すりの取り付け工事をする事になった。Aさんが利用できる社会資源として最も適切なものはどれか。

1. 住宅改修
2. 福祉用具貸与
3. 補装具費支給制度
4. 日常生活用具給付等事業

問 21

Aさんは最近、歯茎の痛みを感じるようになったため、バスと電車を乗り継いでかかりつけの歯科医院を受診することになった。Aさんは「誰かと一緒なら安心だけど、長女は仕事があるから頼めない」と言う。訪問看護師のAさんへの対応で最も適切なものはどれか。

1. 訪問看護師が付き添う。
2. 1人で外出できるように励ます。
3. 長女に付き添ってもらうことを勧める。
4. 訪問介護員による外出介助の利用を勧める。